

平成 18 年度愛知県環境審議会専門調査員協議会（第 2 回）会議録

1 日 時

平成 19 年 2 月 14 日（水）
午後 2 時から 5 時まで

2 場 所

愛知県自治センター 3 階 会議室D

3 出席者

(1) 専門調査員

神戸専門調査員、高木専門調査員、中西専門調査員、成田専門調査員、
村松専門調査員、三津井専門調査員、岡田専門調査員、加藤専門調査員、
河瀬専門調査員、木村専門調査員、水野専門調査員、大谷専門調査員、
大江専門調査員、高橋専門調査員、森専門調査員、吉田専門調査員（以上 16 名）

(2) 事務局（愛知県環境部自然環境課）

小田課長、野澤課長補佐、伊藤主査、関主任

4 議 事

(1) 平成 18 年度愛知県自然環境保全地域等の追跡調査結果について

希少動植物の情報を取扱うことから、希少動植物の保護等の環境の保全に著しい支障が生じると認められるため、愛知県環境審議会専門調査員内規第 5 第 3 の規定に基づく環境審議会運営規程第 2 条第 4 項の規定に基づき、非公開とすることが決議された。

ア 今年度の愛知県自然環境保全地域、同候補地及び自然公園内のすぐれた自然地域の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。

イ 各専門調査員からの意見に対して、事務局から県の対応等を説明した。

《主な意見等》

○ 愛知県自然環境保全地域

【伊熊神社社叢】

（高木専門調査員）

マダケがスギ林に進入し、勢力を伸ばしている。山の西側は竹林化している。特別地区への進入は防がねばならない。

（事務局）

一部、区域外（北側斜面。西側には竹林は見当たらなかった。）であるが、竹林化しているところがあるため、氏子等に対して保全地域内への竹林の侵入を危惧している旨、情報提供を行った。

保全地域への影響について、今後とも、状況把握に努めたい。

(岡田専門調査員)

古い方の駐車場から上がっていく道が雨水によって削られつつある。所々水を山に流すようにしておいたところがその機能を果たしていない。

(事務局)

雨水を流すための溝に枯葉が溜まり、流水を阻害しているのが原因であると考えられる。

年に3回、氏子が山道の清掃を行っているため、雨水を流すための溝も清掃を行うように依頼した。

【白鳥山】

(中西専門調査員)

頂上付近にある解説板は老朽化しており作り直す必要がある。

(事務局)

頂上付近の解説板については、老朽化しているが、板面は使用に耐える状況にあり、建て直しについてはもう少し先にしたい。

なお、麓付近の解説板については、平成17年度に建て直したところである。

また、現地を確認したところ、制札板が倒れていたため、今後、予算措置を行い対応したいと思う。

(三津井専門調査員)

右回りの登山コースの案内が不十分である。下山に使った場合は、特に危険箇所に迷い込んでしまう恐れがある。

(事務局)

指摘の件について、地元の維持・管理団体の意見も取り入れて、安全性が向上するよう案内板の設置を検討したいと思う。

なお、現在は、登山コース沿い立ち木にテープが巻きつけてあり、目印となっている。

【山中八幡宮】

(高木専門調査員)

南面にモウソウチクが進入し、ヒノキを弱らせ始めている。北西面にショベルカーが入って工事をしているし、西面（竹尾家の墓付近）の配送センターが拡大し、駐車場を広げ、山すその木々は伐採されている。モウソウチクの進入と山裾の機微の伐採はくい止める必要がある。

(岡田専門調査員)

立ち枯れの木や枝があるので、どうするか検討して欲しい。

【その他】

(森専門調査員)

一般的に竹の進入は、どういう環境変化から、または、人為変化から起きるのか。

乾燥化などが原因か。

(中西専門調査員)

昔のように竹が利用されなくなって、放置されたのが一番の原因ではないか。

(河瀬専門調査員)

竹は、畑の方にはよく侵入するが、森の中にはあまり侵入しているという感じはない。また、高木の中では、竹は負けるようなので、生態系としては、そんなにむやみに入っていきわけではなく、周りの樹木との兼ね合いなどに左右される。ただし、空いている場所にはどんどん広がっていく。

(高木専門調査員)

大きな木が生えている時は、それほど勢いが無いが、大きな木が枯れ始めると一気に勢いを増す。山中八幡宮でも、周囲に樹木が多い部分は竹は負けていっている。結局、日光を求めて、それを栄養源として伸びていくということである。竹が栄養分を作る葉の部分の部分を切るだけでも、勢いを抑えられるのではないか。木が負けないようにしないといけないと思う。

(大谷専門調査員)

業者も竹をチェーンソーで切ると刃がだめになるので嫌がる。よって、手で切るしかない。聞いた話によると、切った後に塩を切り口に入れておくといらしい。

(三津井専門調査員)

竹をやっつけるには、竹の子ができた時に、蹴り折ってしまうのが一番いい。一日蹴れば、何百本と蹴れるので、広い面積でも可能である。

(事務局)

県としても、以前に指摘いただいた茅原沢に侵入した竹に対し、3年計画で伐採を行っている。その結果も踏まえ、今後とも竹の対策について検討していきたいと思っている。

○ 愛知県自然環境保全地域候補地

【飛山池】

(成田専門調査員)

池の岸边にはペットボトルや空き缶が漂着している。釣り人が原因と推察されるが、ひどくならないうちに何らかの手を打つ必要がある。

(事務局)

地元がパトロールを行っており、ごみ等を発見した場合には速やかに回収を行うよう努めているということであったが、今回の指摘を踏まえて、今後は、こみ捨て防止等のため、看板等を設置して啓発も行うということであった。

【その他】

(中西専門調査員)

自然環境保全地域の候補地が候補地でなくなる理由については、県としてどう考えているか教えてもらいたい。

(事務局)

もともと候補地リストがあり、壺町田湿地、山中八幡宮と、自然環境保全地域と

してふさわしく、また、地元等との調整が整ったものから指定してきている。

今、候補地として残っているものは、地権者の了解という面からいうと、かなり難しいものが残っていると言える。もう一つは、すぐれた自然に該当することが条件なので、自然が改変され、資質が損なわれたということになると候補地から落ちていくということになる。

県としては、この候補の中から順次指定していきたいという気持ちがあるが、長年経過していることから、もうそろそろ、候補地リストの見直しが必要な時期にさしかかっているのではないかと考えている。

○ すぐれた自然地域（自然公園内）

【石巻山】

（村松専門調査員）

博物館の展示物は、昔のように実物が多いほうがよい。

クモノスダの株がずいぶん少なくなっていた。

石灰岩地質で日当たりを好む植物をフジが覆ってしまっているため、フジを切る必要がある。

（事務局）

博物館の管理者である豊橋市に確認したところ、市の方針として、実物は変色・変形が避けられないため、パネルを多くしているということであった。

クモノスダの減少については、豊橋市に確認したところ、市も減少していることについては把握しているが、今のところ原因不明とのことであった。

フジが生えている場所は、石巻神社の所有地であり、登山道をさえぎるように生えているフジの幹は、登山者や地元の有志が伐採しているということであった。

（村松専門調査員・高橋専門調査員）

このしろ池の水が、近年になく少ないという話を聞いたのが気になる。

（事務局）

このしろ池の水量の減少については、2004年の秋(9～11月)の降水量はやや多めであったが、2005年・2006年は2年続けて約2分の1と少なかったため、それが影響したと考えられる。

（木村専門調査員）

近年大木の枯れ死や倒れが多く、注意を要する。

（事務局）

石巻神社の所有地であるため、地元市の自然公園担当である豊橋市商工観光課に情報提供を行った。

【富具崎】

（神戸専門調査員）

諏訪社の南西斜面(ウバメガシ林)において、小規模ながら崖面から参道へ岩石の崩落が見られたので注意が必要である。

海浜のゴミの処理はできないか。また、自然を破壊し海岸美を損なう構造物の建設規制はできないのか。

(事務局)

参道への岩石の崩落について、土地は氏子の共有になっており、町は共有者を把握していなかった。今後も県事務所とともに注意をしていきたい。

海浜のごみについては、海水浴シーズンの前後に観光協会がごみ拾いをしたり、年間を通して地元の区がごみ拾いをしている。

また、ご指摘の構造物については、自然公園法の許可基準を満たしていれば許可せざるを得ない。

(中西専門調査員)

変化がないということであるが、動物についても変化はないのか、教えてもらいたい。

(河瀬専門調査員)

動物については、詳細な調査をしてみなければ、はっきりわからない。富具崎では、発見はできなかったが、カエルなどが生息する環境は整っていると思う。

一般的に都市周辺では、里山的環境がこの30年ほどでどんどん減少してしまった。ヒキガエルやメダカが見れなくなってしまった。なんとかして里山的環境を保全することが必要だと思う。

(水野専門調査員)

富具崎周辺で、蛾の調査を行うと、今でもクロシオキシタバが捕獲できる。このことから、自然環境はさほど変化していないと思われる。

【茶臼山】

(村松専門調査員)

スキー場関連の開発により、生態系がくずれ、貴重な植物がなくなりかけている。

(事務局)

スキー場は地元豊根村の施設であるため、ご指摘の内容を村に伝えて注意を促した。

(中西専門調査員)

生態系への配慮について、村に注意を促したということだが、村はどんな対応をしてくれているのか。

(事務局)

半年後、一年後に村に対して確認したい。今の段階では、とりあえず伝えただけである。

(中西専門調査員)

村には、「自然への配慮とはこういうものだ。」ということを是非、伝えてもらい認識してもらう必要があると思う。

(村松専門調査員)

私も同じことをお願いしたいと思っている。茶臼山でいえば、自然植生としてあった貴重な植物を全て剥がして、長野県からたくさんの植物を持ってきて植えてしまった。例えば、愛知県では絶滅種となったヤナギランを長野県から持ってきて植えてしまい、花を咲かせている。それは、人が植えたからということがはっきりしているが、取り返しのつかないことをしてしまっている。

そういうことがわからなければ、自然の植生の分布が狂ってきってしまう。

以前は、池の周りにも貴重な植物が生えていたが、ほとんどなくなってしまっており、キショウブやカキツバタなどを人の手で植えてしまっている。

もっとひどいのは、ホソバシャクナゲをたくさん植えてしまっている。確かに貴重な植物であるが、それは、そこに自生しているから貴重なのであって、

もうやってしまったことは仕方がないが、まだ貴重な植物が残っている可能性があるので、たとえば、「茶臼山でこういう植物を植えたい。」というときに、県の自然環境課へ伺いを立てるといシステムがつかれないか。

自然のものを残すには、何らかの圧力がないとできないのではないかと思う。

(事務局)

いわゆる園芸種や国内移入種を善意で持ち込むという行為が見られるが、客観的に見れば、遺伝子のかく乱になる。

私人でやる場合と公共的な立場でやるという場合は違う。もちろん自然公園法の申請として書類が上がってくるものは、その審査の中で判断できるが、それ以前の問題として、意識啓発に努めたい。県では、全市町村を集める会議が年に数回あるため、「工事の中で在来種を使う、むやみに植物を持ち込まない。」という基本的なことを、時宜を捉えて啓発に努めていきたいと思う。

(水野専門調査員)

スキー場横の駐車場がサーキット族のたまり場となっている。また、茶臼山高原道路についても面の木峠から茶臼山の区間がサーキット族により夜間騒音地帯になっているので、早急な方策が必要である。

(事務局)

それぞれの管理者である豊根村、愛知県道路公社に情報提供を行い対策を講ずるよう依頼した。豊根村については、方策を検討中ということであった。

(大江専門調査員)

自由の広場にある県の看板の文字が読みづらく、改修の必要がある。

萩太郎山を含め国民休暇村の公園施設が拡大されると排水・塵芥・排気ガス等で調査地域全般の自然環境がさらに大きくマイナスの影響を受けるものと思われる。

(事務局)

看板の改修を平成 19 年度中に行うこととした。公園施設拡大による影響については、管理者である豊根村にご指摘の内容を伝えて注意を促した。

【宮山・古山】

(中西専門調査員)

伊勢湾海上交通センター建設に伴い、地形の変形と木の伐採が行われている。その後、このセンターへの導線が旧来の遊歩道を利用し、通勤等の恒常使用がなされている。これらの影響を注意していく必要がある。

【王滝溪谷】

(大谷専門調査員)

上流部には砂防ダムが設けられているが、花崗岩類の特性や自然度の維持にいつそう配慮した治山・治水管理を願う。

○ 全般

(大江専門調査員)

より適切な調査を行うため、道路や建築物の状況など、現況がわかる地形図に調査範囲を記入したものを用意してもらいたい。

(村松専門調査員)

参考に知っておいてもらいたいことがある。移入種の問題はすごく大きな問題である。愛知県で実施された万博は、環境博といわれ、尾張旭市内の田を仮設駐車場として利用して、閉会後にきれいに田に復元をした。

しかし、その土手に外来種の種がまかれ、夏には国内では見たこともない植物がたくさん生えていた。そのようなことが日本中あちこちで行われている。ほとんど中国の植物であるということであるが、雑種もどんどんできており、元の種類がわからない状況になってしまっている。

(2) 研究事例発表

- ・ 木村専門調査員より「レッドデータブックからみた愛知県の貝類の現状」について研究発表された。
(次回、平成 19 年度第 1 回については、地形・地質部門の発表を予定。発表者未定。)
- ・ 愛知県環境審議会専門調査員協議会の会議録については、愛知県環境審議会運営規程第 7 条第 1 項の規定に基づき、2 名の専門調査員による署名が必要なため、高木専門調査員及び大江専門調査員が互選された。

(3) その他

今年度限りで、退任される予定である三津井専門調査員及び大谷専門調査員からあいさつがあった。